

(別紙2-1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 27年 3月 16日

【事業所概要 (事業所記入)】

事業所番号	4271401699		
法人名	有限会社 なごみ会		
事業所名	グループホーム諏訪の里		
所在地	〒859-1504 長崎県南島原市深江町丁1520番地		
自己評価作成日	平成27年2月12日	評価結果市町受理日	平成27年3月31日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/42/index.php?action_kouhyou_detail 2013_022_kani=true&JigyosyoCd=4271401699-00&PrefCd=42&VersionCd=022
-------------	--

【評価機関概要 (評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118番地1
訪問調査日	平成27年3月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点 (事業所記入)】

仰げば普賢岳、眼下には有明海の大海原が広がり風光明媚な場所に位置し、車の通りの少ない散歩コースにも恵まれている。
お天気やその日の体調に合わせ、出来るだけ外への散策を行うことにより、地域の方々とのふれあいもあり”ホームの人”ではなく地域の方々と同じ住民であることを隔たりなく理解して下さる事を切望している。
家族の方の同意を得ながら、市の行事や祭事など何処にでも連れ出し、ノーマライゼーションの浸透にも努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点 (評価機関記入)】

慣れ親しんだ住宅地の中で海の景色を眺め四季の変化を身近に感じることができる当概事業所は、長年にわたり介護職に携わる職員のもと専門的な視点からその人が持つ力を言葉や表情の中から引き出し、地域の中でその人らしく過ごすことができる支援を実践される様子は家族や本人の安心感にも繋がっている。昔ながらのご近所付き合いを大事にされ民生委員と共に適切な行政部署へと繋ぎ、家族や地域の安心に繋げると共に介護の専門的な知識をた

めらいなく提供される様子から周囲の信頼も厚く、地域の相談役として地域貢献されていることも窺われた。入居者の個性を引き出し、地域と多く関わり合いを持ちながら高齢者が住みやすい街づくりに向け GH 連絡協議会で積極的に活動されるなど「地域の中で輝き共に生き支え合う環境作り」を目指す職員の姿から今後ますます期待の持てる事業所である。

1 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『地域の中で輝き共に生き支えあえる環境づくり』を理念として掲げ、個々の出来ないところをさりげないサポートで自立を助けることを実践している。	日常的に職員間で理念を通して言葉の捉え方を振り返り、日々の気づきや支援の方向性、また、入居者が持つ機能を維持し安らかにその人らしい生活の実現に向けお互いに注意しながら職員間で話し合い実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	幸いにも近隣の方々のご理解も年々深まり、気軽に声かけをして頂いたり、近隣の散歩へ出掛けると農作業の途中でも、手を止めて話しかけて下さる。また、収穫された物をご好意により頂戴することもある。	地域の独居の方への訪問や地域の方と挨拶を交わす際に必ず言葉を添えることでより関係性も深まり人との繋がりを大事にされている。地域の小学生慰問を受け入れることでふれあいの時間を持ち、また、認知症高齢者への理解や今後の対応に繋がった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に根付き開所より12年目となり、窓口的な役割をもち、地域の皆さんの相談をお受けすることもある。自治会長さんや民生委員の方と連絡をとりあったり支援方法を一緒に考えた実績もある。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	個人情報には十分配慮をしながらも利用者の実際の状況やケアについての取り組みなどについて報告し参加して頂いた方からの意見や情報提供なども大切に情報交換と質の向上に取り組んでいる。	推進会議では入居者の状態や生活の様子が報告され参加委員からも忌憚ない意見を頂いている。会議では地域の独居老人の相談や民生委員との情報交換の場ともなっており会議は有意義なものとなっている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	島原半島GH連絡協議会を中心に、特に南島原支部では活発に研修などへの取り組み相互の情報交換なども行い、協力体制に取り組んでいる。	雲仙普賢岳災害経験した職員より災害時の対応について行政へ問題提起し、対応についての働きかけを行った。推進会議を通して行政に地域の情報を発信し安心して過ごせる街づくりにも貢献されている。	

6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>絶対的に拘束をしない方針でケアの実践を行っている。たとえば、暴力行為などをスタッフが受けても落ち着かれるまで目を離さず身体拘束をしないケアをしている。言葉遣いにも配慮している。</p>	<p>徘徊や問題行動の理由、また対処の方法を職員間で話しあいながら拘束を行った際の弊害を理解することで拘束をしないケアに取り組んでいる。適切な内服量を専門医と相談すると共に職員の介護力によって徐々に内服の除去に繋がった事例もあった。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待については、これまで全く事業所内で起こった事実はない。スタッフにおいては、逆に利用者からの暴言・暴力を受けることが多々ある。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>地域福祉権利擁護事業が必要とされた事例もあり、独自の研修も行っている。自己学習が出来るような資料もスタッフに提供している。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>重要事項や運営規定などの必要書類を十分に説明し、理解・納得の上で署名捺印をして頂いている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意思表示が出来る利用者からの意見、不満、苦情については十分に傾聴し、誤解や語弊のないように説明をしているが、認知症の進行状態では、説明をしても理解をして頂けない場合も多い。</p>	<p>重度化に伴い意思伝達や意思表示ができない利用者も増えていますが、本人や家族からの意見を尋ねながら意向の把握に繋げている。面会の際に職員から日頃の状況を細かく伝え、遠方の家族にはこまめに電話連絡することで距離感をなくし安心感につながるよう支援されている。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>職員には、常に意見や提案があれば、その都度申し出てくれるように話し、職員会議やケア会議でも意見を聞き検討をしている。</p>	<p>日頃から職員間のコミュニケーションを大事にし、気づきを相談、報告しやすい関係を構築されている。職員の得意部分や不得意な部分をお互いに補い合いながら個性を認め、共に声を掛け合い入居者や職員がともに安心して過ごせるよう援助されている。</p>	

12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>職員個々の努力や実績、勤務態度等を把握した上での給与水準にしており、スキルアップも支援している。職員が勤務しやすい時間等の相談に応じている。</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内外の研修には、参加を促進しており、人員配置の関係上、全員が一度に同じ研修を受けることは難しいので、研修を受けた者が必ず報告をし、知識の共有を図りながら、新人の教育にも努めている。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>島原半島GH連絡協議会を中心に、特に南島原支部の研修会などへも積極的に参加し交流を持ちながら共に学び研鑽を高めている。</p>		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入所される前に、ご本人と向き合い伺うようにしているが、認知症の進行状況次第では、難しい場合も有る。その場合はご家族からお話を伺っている。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>利用までの経緯やその方の生活歴、ご家族の希望などは必ず入所前に伺うようにしている。また、入所後もその都度、伺うようにしておりケアプラン作成時にも相談し十分納得した上で、サインを頂いている。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>居宅の担当者も含め、その方のニーズを見極めながら入所がいいのか、または他のサービス（通所など）がいいのかを、事前によく話し合うようにしている。</p>		

18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本来の家族のように、日常生活において一緒に生活をする中で、喜怒哀楽を共にし、利用者から昔話や歌や知恵などを引き出し、そして学び、出来ないところを支援していくようにしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の協力なしでは、成し得ないことであり、行事への参加をお願いしたり、面会時にもゆっくり過ごしてもらえるように支援をしている。また、日々の暮らしや心身のケアに至るまで相談をしながら支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないうよう、支援に努めている	ご家族の同伴による外出や外泊に加え、ホームからスタッフが同行して屋外へ外出したり、散歩したりすることで利用者の視野がホーム内だけに留まらないように気をつけ支援している。	生活歴や言葉、表情を見ながら入居者の対人関係や思い出深い場所を把握し、家族のように関わりを深めながら思いに寄り添うよう努められている。入居者の友人の訪問があった際にはお茶を出し自宅のように寛げる雰囲気作りを行いながら思いを大事にされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中は利用者皆さんに、楽しんで出来る体操やレクへの参加を促し、居室に閉じこもらないように声かけしている。利用者同士も交流が持てるようにスタッフが潤滑剤の役割になるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用（契約）が終了しても、ご家族の精神的不安にも配慮しいつでも相談していただけるよう、気軽に連絡をして頂ける体制を取っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	居宅の担当者や本人やご家族からの聞き取りにて生活歴や生活環境、サービス利用の経過等についても把握するようにしている。	生活歴や日課を理解しながら入居者にあつた声かけを行い、基本動作の回復を促しながら、日頃の会話や表情の変化から利用者らしさやその方が持つ力を引き出しながら、安楽に生活ができるような支援に努められている。	

24	<p>○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>居宅の担当者や本人やご家族からの聞き取りにて生活歴や生活環境、サービス利用の経過等についても把握するようにしている。</p>		
25	<p>○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>毎月の職員会議において、全員で検討し総合的に把握するようにしている。 状態変化があれば、その都度話し合うようにしている。</p>		
26	<p>10 ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>本人や家族からの希望を取り入れながらケアプランに同意を頂き作成している。ケア会議等で職員全員の視点で、おひとりずつ検討する機会を設けている。また入所時や状態変化による見直しなども臨機応変に対応している</p>	<p>本人や家族の意向に添って職員と共に検討されたものとなっている。介護計画実践記録には援助内容が明示され確実な実施に繋がるよう意識付けがなされている。重度化に伴い現状維持を目標とするものが多いが、一人ひとりの残存機能を活かしながら日常生活リハビリを取り入れることで基本動作の維持に繋げている。</p>	<p>現在職員によって記録内容のばらつきがあり、ケアプランの進捗状況や状態推移が分り難い状況である。入居者が望む生活の実現に向け目標を周知し入居者の発した言葉や表情等、詳細な記録を通して振り返りを行うことで、更なる入居者本位のサービス実践に繋がることを今後期待します。</p>
27	<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>全員が、毎日のケア記録に目を通し確実な申し送りを記録として残しながら、情報を共有し実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>		
28	<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>本人やご家族の状況、その時々要望に応じてサービスの変更が可能である。</p>		
29	<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>近隣の方々の協力体制や民生委員さんとの交流、特に年一度の総合避難訓練においては、消防や消火設備会社の方々の協力を頂いている。</p>		

30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者それぞれの主治医との連携を取りながらも、緊急時の対応などが出来るように支援している。必要に応じて訪問看護の利用者も可能で適切な医療のバックアップ体制も支援している。（実績もあり）	入居前のかかりつけ医を継続受診し、経過の推移や看護師により細かな情報提供を行うことで内服の調整や対応の際の指示等、適切な医療に繋がっている。状態に応じて往診可能な医療機関との連携もあり入居者や家族の安心に繋がっている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制を取り、週に1回は必ず看護師が利用者の健康状態を把握するようにしている。訪問看護の利用者も実績があり適切な医療のバックアップ体制も支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	特に協力医療機関で有る、泉川病院においては地域連携室が設けてあり、利用者の状態や早期退院に向けての情報交換や相談に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化及び終末期に向けた指針を作成しており、本人やご家族にも説明の上、同意を得て書面として残している。ホームで出来る限りのケアを主治医の指示のもと行うが、医療的な処置が必要である場合は、本人やご家族と主治医を交えての相談を行う。	入居者の重度化に伴い家族からの希望も多く、本人や家族へ意向を確認しながら今後の対応を検討されている。現在までも看取りの経験があり医療連携を図りながら必要な医療知識の習得や状態変化に対する対応方法等研修を重ねながら今後も希望時への対応に備えていく方針である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の救命講習を受けており、急変や事故発生時に対応できるよう備えている。大村消防学校の訓練や自衛消防隊へも参加し、訓練を受けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	南島原市消防署布津分署と中村商会のご協力を得ながら、総合避難訓練や消火訓練を実施し、さらに自主避難訓練を行い災害対策に取り組んでいる。	年に2回防災・防災を想定した避難訓練を行っている。管理者は雲仙普賢岳の災害で避難した経験があり、考えられる災害（水害・山災害・台風等）への対策をホーム内外の随所に備えられている。	備蓄品は十分な備えがあるが、一覧表の作成・自主点検表がなく、書面化されていない。災害時はどのような状態になるか分からないので、書面（リスト）化する事で職員のみならず、協力者へも分かり易くされる事を期待したい。

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけや対応については、出来るだけの配慮をしている。また、記録については一冊にケア記録として綴りを作成しているが、個別に記録を取っている。 入居者の発した言葉や態度、言葉かけや視線の高さ、前職を加味するなど入居者に合った言葉かけや意思表示をしやすいよう問いかけ方を工夫しながら対応している。職員間で態度や言葉遣い等注意喚起しながら人格を損ねない対応を行っている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の掃除や体操のほか、日常生活においても出来る事は声かけし働きかけながら自己決定の支援に努めている。
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の行動は、一人ひとりのペースを大切に出来る限り希望に添っての支援に努めている。
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者からの申し出には随時対応し、その方に応じて美容室または理容室までの付き添い介助をしている。自ら訴えの出来ない方についてはスタッフが整容に努めている。
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のメニューは決めておらず、自家栽培の旬の野菜などを取り入れ、食材の刻みを手伝って頂いたりして準備に取り組んでいる。片付けにおいても、職員だけで行わず協力をして頂くように声かけをしている。 彩りよく盛り付けがなされた献立には地元野菜がふんだんに使用され、食材を通して季節を感じることができ入居者同士で会話が広がるきっかけにもなっている。できる範囲で入居者にも炊事のお手伝いを頂き、自分の役割を担いながら力を発揮されている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その方に応じた提供が出来るようスタッフ全員が配慮しながら支援をしている。食事等の摂取状態は毎食記録し、特記が必要な場合も記録に残している。

42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは日常的に支援しており、義歯については洗浄など、管理が出来ない方についてはスタッフが預かりし清潔保持に心がけている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	24時間365日の排泄チェック表を記録しており、出来るだけ一人ひとりの排泄パターンをつかみ、トイレ誘導を行うなど失禁やおムツ使用の軽減に努めている。	トイレでの排泄を基本とし、下肢筋力の低下を防止するため生活リハビリを積極的に取り入れながら排泄の自立支援に向け取り組まれ、便秘解消に食物繊維や適度な運動を多く取り入れ下剤に頼らない排便に向け取り組まれている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	健康食を心がけ、水分の摂取量も考慮し食事においても食物繊維を多く取り入れている。また1日の中で腸の働きを促すよう適度な運動を行って頂いている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は毎日可能で、最低週2回～3回の入浴が出来るように、利用者の体調や希望・タイミングをみて支援している。また、入浴ができな日は全身清拭を行っている。	入居者の希望やタイミングに応じて入浴を選択することが可能で重度化した入居者には2名で対応し安全面にも配慮がなされている。通気性が良く、配慮がある浴室は自然の明かりが差し込むと共に清潔感があり、寛ぎながら入浴することが可能である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	全室個室になっているので、いつでも居室で休息が取れるようにしており、また、共有の部分に畳の間もあり、自由に使用いただけるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の主治医からの指導と薬局からの文献を元に、個別にファイルをし、スタッフ全員が把握し、利用者の能力に応じて服薬の支援を行っている。		

48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入所時に事前にこれまでの生活歴や趣味などをお聞きし、入所されてからの暮らしに活かせるよう努めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気や体調をみて、屋外への散歩などへスタッフが付き添い出掛けられるように支援している。 事故防止のため、1人での外出は出来ない。	重度化に伴い外出も困難な状態になってきたがホーム近隣を職員と共に散策し畑を眺め季節を感じる支援を行っている。行事予定のほかに家族の理解を得ながら個別支援で買い物や思い出の場所に向くなど心の動きを大事にするよう努められている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	普段は事務所にてお預かりしているが、外出時にお金が必要な場合は利用者の状態に応じて職員が所持している場合もある。ただし、現在は金銭管理が出来る方がいらっしゃらない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の状態に応じた支援を行っている。現在までの利用者で自らTELを出来る方は少なく、取次ぎにて支援していた。また、手紙のやり取りについても郵便の受け渡しは行ってきた。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	住宅街ではあるが、特に不快な音はなく夏にはヨシズにて涼を取り、暗くならないように採光にも心がけている。 四季折々の花を飾り、安らぎのある居心地の良い環境作りに取り組んでいる。	職員により丁寧に整頓された共用空間は清潔感や空調に配慮され丸みを帯びた柱や色調は安心感を感じさせ気持ちよく過ごすことができる。玄関外付近、トイレ付近に折りたたみ式の壁付け椅子の設置がありトイレ待ち、靴の脱着、イベント時等に利用でき安全面にも工夫が感じられた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	東側廊下の端は、眼下に有明海を展望でき好んで過ごされるので、安全面にも配慮し居心地の良いスペースを提供している。ホールや畳の間もあり、自由にくつろげる場となっている。一人になりたい場合は、全個室なので自室で過ごす事が出来る。		

54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者からの希望が難しい方については、ご家族と相談をしながら持ち込みをして頂いている。	入居者の生活歴や日課を理解し、家族に協力と理解を得ながらその人らしい部屋作りがなされている。洋室はクリーム色のカーテンを使用し柔らかい光が入るよう配置され家族の写真や御仏壇の持ち込みがあり、職員のあたたかな言葉かけと共に家族と離れながらも安心感を持って生活されている様子が窺われた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内の各所に手すりを設置したバリアフリーの建物で、利用者の目線に合わせたトイレやお風呂の入口に目印をし、危険物についてはスタッフで管理しながらも自由に出入できる環境づくりを行っている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている。 (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない

64	<p>通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)</p>	○	<p>1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない</p>
65	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)</p>	○	<p>1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない</p>
66	<p>職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)</p>	○	<p>1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない</p>
67	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。</p>	○	<p>1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない</p>
68	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。</p>	○	<p>1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない</p>